

3 交付実績

(件、千円)

| 項目 | 30年度(決算) | 元年度(決算) | 2年度(決算) | 3年度(予算) |
|-----------|----------|---------|---------|---------|
| 交付(見込み)件数 | — | 25 | 15 | 30 |
| 決算(予算)額 | — | 74 | 46 | 99 |
| 国庫支出金 | — | 0 | 0 | 0 |
| 都支出金 | — | 74 | 46 | 99 |
| その他 | — | 0 | 0 | 0 |
| 一般財源 | — | 0 | 0 | 0 |
| 交付実績の特記事項 | | | | |

4 補助金の交付の適否に関する基準 [○:適合、△:適合しているが課題あり、×:不適合、-:非該当]

| 項目 | 内 容 | 判定 | 判定の理由(△、×の場合のみ記載) |
|--|---|----|-------------------|
| 必要性 (公益性) | 補助事業等が、社会情勢や区民ニーズに適合しているか | ○ | |
| | 基本構想、総合戦略、個別計画等の区の政策に適合しているか | ○ | |
| | 区と区民等の役割分担の中で、区が補助すべき事業であるか | ○ | |
| | 実施しなかった場合に大きなマイナスの影響が生じるか | ○ | |
| 公平性 | 補助要件に該当する補助事業者等であれば、誰でも補助金の申請をする機会が確保されているか | ○ | |
| | 交付先は適正な手続きによって決定されているか | ○ | |
| 効率性 (有効性) | 補助金の交付以外の代替策はないか | ○ | |
| | 補助金の交付による効果が認められるか | ○ | |
| | 補助金額に見合う具体的効果が認められるか | ○ | |
| | 事業実施の効果が広く区民に還元されているか | ○ | |
| 適正性 (適格性) (妥当性) ※個人等の補助金については不要 | 法令等に抵触していないか | - | |
| | 団体等の活動内容が補助目的と合致しているか | - | |
| | 団体等の会計処理や補助金の使途が適正か | - | |

5 効果、課題及び今後の方向性

| | |
|--------|---|
| 効果 | 当該補助金により事業が無料で行われることで、事業の利用が促進された。事業実施においては、対象者へ手紙及び電話での利用勧奨を行うが、「無料」であることが勧奨のポイントとなっており、事業利用の大きなきっかけとなった。 |
| 課題 | 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、補助金交付件数が15件と低調であった。(事業申込者は19名)。令和3年度は募集案内の工夫等により申込者数は増加しているが、今後も申込者数を増やしていくことが課題である。 |
| 今後の方向性 | 糖尿病性腎症は人工透析導入の主要原疾患となっており、重症化すると患者のQOLを著しく低下させるのみならず、国保財政にも大きな負担となっている。人工透析の年間医療費は1人当たり約500万円とも言われるなかで、国保財政の健全化のために糖尿病性腎症重症化予防の取組を推進することが喫緊の課題となっている。そのため、今後も継続して確認書の作成に要する補助を行うことで、事業の利用を促進していく。 |